



層はカレー、夜はスパイス料理とインドや各国のビール・ワインが楽しめるお店がエビスパン向いに開店しました。店名はインド語で「まじめ一本気」を意味することば。オーナーの越智さんが人からよく言われることばでもあるそうです。「元々は漫画家を目指して専門学校に通っていた



「夜は『食べて飲んで締め』にビリヤニ(スパイスと肉の炊き込み飯)をおすすめします」
 オーナー 越智 健三さん(37)
 埼玉県出身、糸織在住 昔は山登りも
 趣味: 水槽の魚を見る

西鶴賀便り

発行 長野市中心市街地活性化協議会 長野県建築士会 ながの支部
 協賛 西鶴賀町

指して専門学校に通っていた。2023年明けに長野に移住して、このたび自分の店を開きました。おかげさまで忙しい日々を送らせてもらっています。近所の常連さんもたくさんいらっしゃいますよ。目標は『長野で一番のカレー店』。カレーを長野市全体でもっと盛り上げていきたいですね。」

～黒板アートと写真で「私たち目線の西鶴賀」紹介～

岡学園 × 西鶴賀エリアリノベーション



イラスト担当 北村さん コース1年
 「黒板の相性に最初は苦戦しましたが、色や文字の組み合わせなどをお金を食わずに大勢でお金を食べたことがなかったからおいしかったし、楽しかったです。」

写真担当 神さん
 「黒板(全体)を見て西鶴賀がイメージできるような、撮影場所のバランスにも気を配りました。激セマ駐車場」看板が個人的には気に入っています(笑) 昭和にタイムスリップしたみたいなマッシュンや『西鶴賀だ』ってつい貝ちう鶴の旗もチームポイント。昔の物を壊さないでそのまま使っているのがいいですね。」

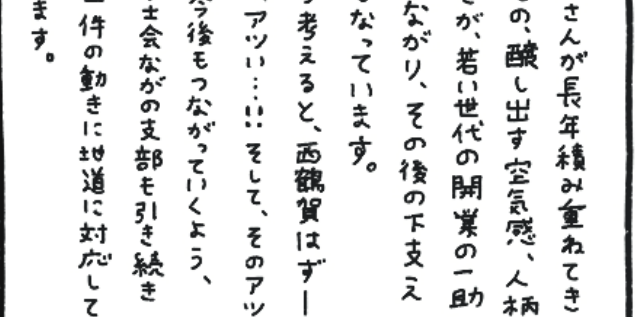
写真担当 坂本さん
 「あまり人がいなくてちょっと寂れているイメージだったけど、歩いてみると話している人とか洗濯物とか、お祭りが始まる前のあくわく感とか、すごくそこに感じられるあたったかがある、すごくいいなと思えました。個人個人が持っているものが伝染してそういう雰囲気になっていくのかも。私が死ぬまでこの街並みが残ってほしいです(笑)」

ちょっとまじめに ゆく年くる年 西鶴賀は今アツい?!
 12月16日のNBS ニュースで『西鶴賀がアツい?!』と題した特集が放送されました。副題は『レトロな雰囲気、今年も惜しまれつつ開店された老舗があった一方で、町やお店の

若い世代の店が次々と。『次々』は盛り気味な感じがしますが、各店主のインタビューを通して西鶴賀の魅力もあらためて感じられる内容でした。「新しい風が吹き込んでいる商店街。そこには町のみなさんの受け入れ体制のあたたかさもありましたね」という、アナウンサーの方の締めセリフもよかったです。今年も惜しまれつつ開店された老舗があった一方で、町やお店の

みなさんが長年積み重ねてきたもの、醸し出す空気感、人柄などが、若い世代の開業の一助になったり、その後の下支えにもなっています。そう考えると、西鶴賀はずっとアツい...そして、そのアツさが今後もつながっていくように、建築士会ながの支部も引き続き一件一件の動きに地道に対応していきます。

◎アーカーブやお知らせなどが載っています



西鶴賀キッチン SNS: パスHP
 西鶴賀エリアリノベーションHP

西鶴賀の魅力で、世代に関係なく同じものが学べるんだと感動しつつ「今の社会って生産性やスピードが第一じゃないですか。でも西鶴賀は人と人との関わり合いが排除されずに大事にされている場所」と、最年少の北村さんが発した言葉にさらにおたまった編集室でした。ブラボー!!